

北海道の役者たち映画祭

10月24日（土）－30日（金）

北海道が映画ロケの宝庫であることは、映画界のみならず多くの方が周知することでもあります。ここ数年はますます北海道ロケ作品が増えています。昨年の公開作でも網走ロケ「抱きめたい」、十勝ロケ「銀の匙」、函館ロケ「そのみにて光り輝く」、芦別ロケ「野のななのか」、紋別ロケ「私の男」、空知ロケ「ぶどうのなみだ」、そして今年は6月の「きみはいい子」等に続いています。さらに嬉しいことは、北海道の多くの役者が、これらの北海道ロケ作品に出演するようになったことです。2013年の「許されざる者」が、その突破口を開いた感もありますが、その勢いは、少しずつ広がりがつつあります。それには、自主制作の短編作品も含めて、演劇に携わる役者のみなさんが、積極的に映画に関わろうとしていることも、影響していると思います。そういう北海道の役者の皆さんを、紹介していこうと思っの第一弾です。

映画祭は、まずは第一回として、劇場公開作品、自主制作作品、短編映画など多様な作品を上映し、トークなどで北海道の役者たちをご紹介します。また北海道作品の原点ともいえる、鈴井貴之第一回監督作で、安田顕さんが映画界へ活動を広げていききっかけとなった「マンホール」を十数年ぶりに35ミリ（英語字幕版）で上映いたします。

上映作品 「きみはいい子」「マンホール」「茜色クラリネット」「びじょ」「近すぎる空」「えんえん」「花」など、約10作品、トークも10名を予定しています。詳細は、専用チラシなどをご覧ください。
--

第10回札幌国際短編映画祭	10月7日（水）－12（月・祝）
---------------	------------------

SAPPOROショートフェストも、遂に10周年を迎えました。今年は記念プログラムも加え、多様で充実した内容になっています。キノでは恒例のジャパンオフシアター作品の上映です。作家挨拶も予定しています。

「マリア・カラス」共催上映	11月7日（土）－13日（金）
---------------	-----------------

絶世の歌姫、絶頂期のバリ・デビュー。唯一残る貴重なオペラ上演映像「トスカ」第二幕を含む、バリ・オペラ座における伝説的なガラ・コンサートの全てをリマスター音声、完全版で上映いたします。主催：ティアンドケイテレフィルム 料金：前売2,500円（当日2,800円）※共催上映のため、キノ会員、シニア、学生などの割引はございません。

茜色クラリネット通信	まだまだ続く全国上映!
------------	-------------

9月1日（火）	あいち国際女性映画祭	10月12日（月・祝）	山形国際ドキュメンタリー映画祭
9月2日（水）	大地の芸術祭・妻有トリエンナーレ（十日町シネマパラダイス）	10月中旬	京都国際映画祭
9月27日（日）	北海道科学大学大学祭	11月21（土）	新潟シネ・ウィンド30周年祭



9月19日（土）公開

しあわせへのまわり道

サインを見逃さないで。さあアクセルを踏んで、道は続いているわ

きっかけはパトリシア・クラークソンとベン・キングスレーと共に「エレジー」を撮影している時だからなんと8年前、パトリシアから脚本を見せられて、すっかり魅了されたと同時に深い感銘を受けました。なぜなら私自身がまさにその状況にあり、しかも運転免許を持っていなかったのです。おかげで個人的ですが前に進む勇気をもらいました（笑）ウェンディは仕事熱心で洗練されていて、タフで機知に富んでいるうえに、素晴らしい成功を収めている人です。でも夫に去られて彼女の世界は崩壊してしまう。そして車の運転を習い、その過程で自分らしくあることや、外の世界に心を開くことを学んでいくのです。一方、ダルワーンは実直で厳格な強い倫理観をもつ敬虔なシク教徒。ウェンディとの運転教習を通じて、新しい自分を発見したり、柔軟で寛大になる必要性を知るのです。“何かを始めるのに遅すぎることはない”という姿勢、私たちはいとも簡単に人生の意味を見失うけれど、どうやったら再びその意味を取り戻すことができるのでしょうか。ある男と女に芽生えた心の絆を通して、それぞれの答えを見つけてほしいと思っています。—— イザベル・コイシュ監督（プレスより抜粋）



9月19日（土）公開

ボーイ・ソプラノ ただひとつの歌声

僕はここで歌いたい ― 今、夢の舞台の幕が上がる!

ボーイ・ソプラノで歌えるのは少年が声変わりしてしまうまでのほんの少しの間だけ。まさに神に許された奇跡のような瞬間だ。ジラール監督は生の人間の声には常にどこか並外れたものがあるという。

「人々はヨー・ヨー・マヤジョシュア・ベルのような器楽家を愛してやまない。それは彼らの演奏に人間の声聞こえるからだ。僕がオペラを演出して、最も楽しいリハーサルは、コーラスが出てきて、ハーモニーを奏で始めたときだ。涙が出るほど感動する。そこにはものすごい感情のパワーがあるんだ。少年合唱団のサウンドがその極みのレベルまでもっていく。」

「音楽を選んでいる間、多くのリサーチと楽曲を聴いた。そして、純粋なものが人の心に特別な感動を呼び覚ますことに気づいた。聴く時間を短くしないと、感情と郷愁が溢れ出てきて、自分を押しさえられなくなったほどだ。偉大な作曲家たちの感動の楽曲と純粋無垢な子供たちの声が変わる瞬間。他にそれほどの感動があるだろうか。」

「それがこの映画の原動力だった。純粋な声が人の心を大きく解き放ってくれるんだ。」—— フランソワ・ジラール監督（プレスより抜粋）

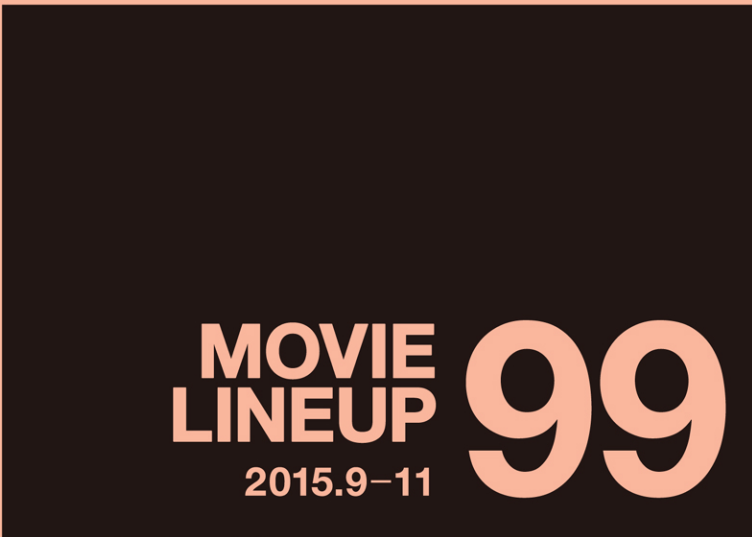


10月31日（土）公開

エール！

届け！心のまんやかに。

主演のポーラに抜擢されたのは、フランスで人気の歌オーディション番組で見出されたルアンヌ・エメラ。セザール賞、リュミエール賞新人賞をW受賞し、映画同様、奇跡の歌声で今年3月のデビューアルバムはフランス初登場第一位に!



THEATER KINO

今号のごあいさつ

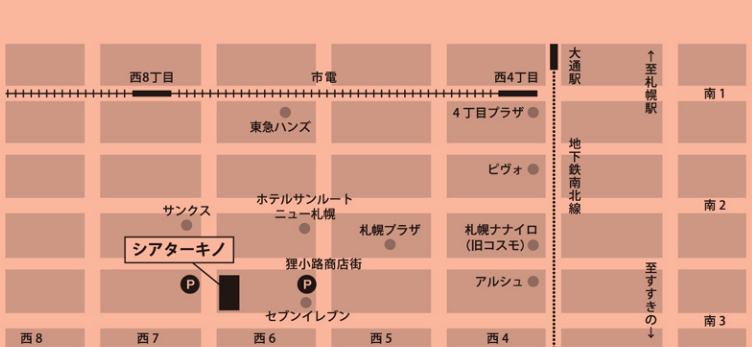
秋の気配がしてきました、空気が美味しくて歩くのがとても気持ちいい季節ですね。「わたしに会うための1600キロ」の上映が始まりました。伝えたい“私の物語”がある、と原作者のシェリル・スレイド。アメリカ西海岸を縦断するパシフィック・クレスト・トレイルを知った26歳の時、最愛の人をなくし自分をも見失って人生のどん底だったシェリルは、全くの初心者だったけれど全てをやり直すためモハヴェ砂漠からオレゴン州まで1600キロを単独で踏破を決意しました。想像をはるかに超える過酷な旅、大自然のまった大中ですり眠り、また歩く…。「朝日と夕日は見ようと思えば毎日見られる。美しさの中に身を置きなさい。水の中の魚は眺めるだけで十分。それがすべて。私が唯一教えられるのは、最高の自分の見つけ方と、それを手放さない方法よ」。旅の終わり、自分を肯定し歩き出すシェリルの晴れやかな表情が忘れられません。「しあわせへのまわり道」でもそうですが、映画の中で女性たちは様々な出来事から道を見失ってしまうことがあるけれど、いろんな方法で自身と向き合うきっかけを見つけていく。映画は私たちを励ますように背中を押してくれる。

支配人 中島ひろみ

2015年度キノ会員（スタンダード・シニア・学生会員）9月30日まで延長募集!

ご利用期間 ～2016年3月31日

※ピンテージ会員の募集は終了いたしました。



THEATER KINO

札幌市中央区狸小路6丁目南3条グランドビル2F
TEL 011 231 9355
www.theaterkino.net / webmaster@theaterkino.net